

### 宝永地震の津波

宝永地震は、宝永4年10月4日（1707年10月28日）に遠州灘沖から四国沖を震源域として発生した巨大地震で、記録に残る日本最大級の地震とされています。土佐では津波により大きな被害を受けました。高知県の中土佐町と宿毛市の様子をお伝えします。

#### ■中土佐町久礼の津波（高知県中土佐町）

宝永4年（1707）10月4日未上刻（午後2時頃）、大地震が起こり、未下刻（午後3時頃）より津波が押し寄せ、久礼は甚大な被害に見舞われました。津波は、南は大坂谷まで、西は常賢寺まで、北は焼坂のふもとまで襲い、町中の3分の2が海中に没したと伝えられています。家屋も大半が流失し、死者も200人前後に達しました。久礼八幡宮も柱一本残らず、すべて流失しました。「久礼村根居帳」には、宝永地震までは久礼の町には市が立ち、郷と浦の人が入り交じって生活していましたが、宝永地震後には浦分は人の住める状況ではなくなったため、郷分へ移住するようになったことが記されています。また、久礼熊野神社の震災碑にも宝永地震の津波のことが刻まれています。<中土佐町史編さん委員会編「中土佐町の歴史」1986年、中土佐町史編さん委員会編「中土佐町誌」2013年）など>



#### ■宿毛市大島の津波（高知県宿毛市）

宿毛市大島の震災状況は、大島の庄屋の「小野家家譜」に次のように記されています。「宝永四亥年十月四日、大ニ地、震動シ、山穿テ水ヲ漲シ、川埋リテ丘ト成、浦中ノ漁屋悉ク転倒ス。逃レントスレ共、眩暈テ壓ニ打レ、或ハ頓絶セントスル者若干ナリ。係リシ後ハ、高潮入リナルヨシツブヤク所ニ、大津浪打テ島中ノ在家一所トシテ残ル方ナシ。昼夜十一度打来ル。中ニモ第三番ノ津浪高クテ、当浦鶴社ノ石垣踏段三ツ残。」地震の後、津波が11回襲来して島中の家はすべて流され、3番目の津波は鶴（はいたか）神社の石段3つ残す地点まで到達したとのことです。鶴神社の当時の石段は42段でしたので、39段まで水に没したことになります。石段の下から39段目に津波碑が建立されています。<宿毛市史編纂委員会編「宿毛市史」1977年、宿毛市教育委員会編「河戸堰」1996年）など>

